

メッセージアウトライン

ヤコブの手紙 5:7~9「心を強くしなさい」

[7]「こういうわけですから、兄弟たち。主が来られるときまで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています」

ヤコブは信者たちに対してさまざまな警告と実際的な勧めを語ってきた。それらのことを受けてここからは忍耐について語っていく。信仰のゆえにさまざまな苦しみや迫害を受ける時、そこに生まれるのが忍耐である。私たちには信仰のゆえの苦しみやつらさを耐え抜く十分な理由がある。それは「主が来られる」からである。主イエス・キリストは二千年前には世の救い主として、柔和な子羊のようにしてこの世に人となって来られたが、今度は世のさばき主としてすべての権威、権力をもってこの世に来られる。→マタイ 26:64 これはイエス・キリストを自分の救い主と信じる者にとっては無上の喜びの時となり、信じなかった者にはさばきの時となる。それゆえヤコブはクリスチャンたちに、主が再び来られる日を待ち望んで、耐え忍びなさいと言うことができたのである。ここではその例として農夫が収穫のために雨を待ち望んでいる様子が描かれている。

パレスチナでは10月下旬から11月上旬にかけて雨が降る。これが秋の雨で、この前に農夫は種をまく。そして春の雨は4月から5月にかけて降る雨のことで、この雨によって作物は十分に成長し、実が熟するのである。ゆえに農夫は種をまいてからも、また、刈り入れのためにも耐え忍んで雨を待つ必要がある。これは貴重な実りを待つための忍耐なのである。

[8]「あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです」

クリスチャンの忍耐の源は主イエス・キリストが再び来られる再臨にある。主が天の万軍を従えて天から再び来られる時、罪のこの世はさばかれ、私たちの忍耐は報われ、万物は新たにされる。主は私たち一人ひとりがなしてきたどんな小さな良い行いをも決して忘れずに豊かに報いてくださる。信仰のレースを走り終わった時、信者を待っているのは主が与えてくださる勝利の冠なのである。そのことを思い、私たちは心を強くしなければならない。主の来られるのは近い。しかし、懐疑論者や不信仰者はしばしばこのような考えに疑念を抱いた。二千年もたっているのにまだキリストは来ない。はたしてこのことは本当なのかと。しかし、聖書は言う。→Ⅱペテロ 3:3~11 その日その時は誰も知らない。ただ天におられる父なる神のみが知っておられる。→マタイ 24:36 ただ二千年前よりも非常にその日が近づき、その兆候が現れてきているのは確かである。→マタイ 24:3~14,23~33

私たちは心を強くし、忍耐を持ってこの終わりの時代を生きていく必要がある。

[9]「兄弟たち。互いにつぶやき合ってははいけません。さばかれないためです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます」

信仰のゆえの苦しみに会うとき、ともすれば私たちの口をついて出やすいものは、つぶやきではないだろうか。しかし、ここでは互いにつぶやき合うことはやめなさいと勧められている。

苦しみや試練に関する聖書の約束。→ I コリント 10:13、ピリピ 1:29、II テモテ 3:12、I ペテロ 5:7

私たちを愛し、御子イエス・キリストを私たちの罪の贖いのために十字架につけてくださったほどの神の愛とその約束に私たちはしっかりと目を留めて、そこに堅く立たなければならない。

やがて王の王、主の主であるお方、イエス・キリストが再びこの世に来られる。それはこの世のさばきのためであり、私たち信仰者にとっては永遠の喜びの始まりである。

さばきの主は戸口のところに立っておられる。私たちは、いつ主が来られてもよいように心を強くし、忍耐をもって信仰の歩みを進める者になりたい。